

三峯神社歩き旅 2018



2019年1月

旅のチカラ研究所 植木圭二

年末は長距離ウォーキングをして神社仏閣に参拝するのが恒例になっており、今年も友人と行って来た。それは新年を迎える準備が出来た神社や寺に年末に行ってお参りする为先取り初詣と呼んでいる。今年は埼玉県秩父の山の中の三峯神社に行って来た。

■冬季通行止め

12月30日、友人と2人でいつものように先取り初詣に出発する。まだ真っ暗な早朝の横浜駅で待ち合わせてJR線に乗って熊谷駅で秩父鉄道に乗り換える。

秩父鉄道の終点の三峰口駅に到着したのは日が昇りだいぶ明るくなった8時45分だ。駅前には人通りはなく、閑散としている。このほのぼのとした静寂感が何ともいい感じがする。



三峰口駅の標高は約 300m で三峯神社は標高約 1100m にあるので長い上り坂を歩くことになる。三峯神社への一般的な徒歩ルートは路線バスが通っている国道 140 号経由で、その途中から登山道（旧参道）を登ることになるが、私たちが選んだルートはその反対側の南から三峯神社を目指すもので太陽寺経由の約 21km になる。一応は車が通行可能という道なので登山道ではない。この旅の目的の一つは長距離ウォーキングなので、車が通行できる程度の緩やかな坂道は歩くにはちょうど良い。

気温は氷点下 3℃、寒さの中の出発になる。それでも最初の 30 分間を我慢して歩けば体が温まってくるから人間の体は便利に出来ている。

しばらく歩くと「冬期間、この先車両通行止め、三峯神社には行けません」という看板に出くわす。私たちは一瞬顔を見合わせ、すぐさまこれは自動車のことだろう、凍結するので危険という意味だろうなどと勝手な解釈をして前進することにした。確かに道は狭く、雪が降れば車での通行は相当に危ない気がする。その通行止めが幸いしてか、車の往来がないのでさらに歩き易くなっている。

この道路は山の中の道路なので、最高時速 30km で設計されていると書いてある。だから道幅は狭く、カーブもきつい。

落石注意の標識も多く出ている。道路の真ん中には所々に大きな石が落ちていて、それらは多分落ちたばかりの石だろう。通常は落石を見つけたら道の端の方にどけるからだ。それにしてもなんと落石が多いことか。

落石が多いということは急峻な崖がたくさんあるということで、急斜面の山側の岩の間からは水が流れ出ている。冬でなければ水が少しずつ落ちているのだろうが今は凍っている。凍り付いて氷柱になっており、まさしく自然の造形美だ。同様なものをこの後にいくつも見ることになる。



熊出没注意の看板を見かける。

私は思わずハットする。相棒の彼もそんな感じの顔をしている。それは昨年秩父を訪れた時にジビエ料理の店を見つけて、熊井を食べたことを思い出したからだ。その時に店主に聞いたら、この辺で獲れた熊だと言っていた。

しかしながら今は冬、この寒さの中では熊は冬眠中で出てこないだろう。お互いにそう言い聞かせながら前に進む。この熊出没注意の看板も実に頻繁に出てくる。

たまたま民家があり、家の前に人がいたので聞いてみた。

「熊、大丈夫ですかね?」、返ってきた答えは「気をつければ大丈夫、大丈夫。」だ。気を付ければと言っても、何をどう気を付けるのだろうか。

ついでに「三峯神社までこの道で行けますか?」と聞くと「あんな遠くまで歩いていくのかい。ワシは行ったことがないが、ご苦労さんだね。」、これもまた答えになっていない。

まあいいか、言葉を交わし地元の人との触れ合えたことが楽しい。何となく元気をもらえた。

■サイクリング 3人組

歩いていると後ろから声が聞こえてくる。そしてその声が段々と大きくなっていくので、振り返ると自転車に乗った3人組がゆっくり近づいてくる。結構急な坂道なのだがあまり苦にする様子もなく、快調にペダルを踏んでいる。服装や自転車から推測するにはかなり本格的なサイクリストたちだ。

こんな山道をサイクリングか、私たちは驚いている。向こうの3人も、こんなところを歩くヤツがいるのかと驚いている様子が見える。

酔狂な連中と思いながらも、山奥で出会う同胞意識を感じて声を掛ける。

「どこまで行くのですか?」と聞くと、「三峯神社まで行って、そのあとは反対側に抜けて140号線で秩父に戻るつもりだよ。」という答えが返ってきた。反対側の道路というのは路線バスが通っている道のことだ。さすがに自転車は行動範囲が広い。私たちもそれに応えて「我々も三峯神社まで歩きます。あとはバスで帰るので…」。

言葉を交わした後も、彼らは軽やかにペダルを踏んで走り去っていった。

私は少し安心しはじめた。

もしもこの道が本当に通行止めで先に行けないようならば彼らは戻ってくるだろうし、熊が出たとしても一目散に戻ってくるだろうから偵察隊の役目を期待したからだ。

幸いなことに、彼らとは二度と会うことはなかった。

■絶景が広がる

歩き始めて3時間、そろそろ峠越えではないかと話しながらもなかなか峠が見えてこない。今回のルートは標高約1100mの三峯神社に行く途中で最高標高1225mを越えて行くというものなので、恐らくその最高標高が峠になっていると想像しているからだ。

あのカーブを曲がったら峠かも知れないなどと予想することが3回程あった。そんなことを繰り返して約1時間が経過しようとした時に峠らしい場所に出た。そしてそこから少し先に歩くと視界が大きく広がった。



そこに広がる景色は、まさしく絶景と呼ぶのにふさわしいものだ。澄んだ青空の下に、山々が広がっている。近くから遠くまで一望できる。山々の間を縫って今まで歩いてきた道の一部がところどころに見えて、ずっと先に秩父の街らしきものも見えている。

私は思いっきり息を吸って、そして吐きだした。息が少しだけ白く見える。それは実に気持ちいい深呼吸になった。

そしていよいよゴールが近づいてきたのだと感じがしてくる。

■三峯神社

歩き始めて約5時間、三峯神社に到着する。

早速賽銭を手に参拝する。

神社は既に謹賀新年の看板が出ており、まさに先取り初詣になっている。年の瀬のこの時期に参拝客はまばらかと思いきや、結構な人数が来ている。暇人、いや失礼、人が多いのは三峯神社の魅力だろう。

三峯神社は秩父三社の一つで、その三社の中でも唯一山の上にあつてとても神秘的な感じがするパワースポットだ。

何年前にフィギアスケートの浅田真央がここを訪れ参拝して試合で好成績を残した。その彼女が三峯神社をパワースポットと紹介したのを契機に一举に参拝客が増えたといういきさつがある。有名人やテレビやネットの力は絶大だどつくづく感じる。

ちなみに秩父三社の残り二社は、秩父の入口にある長瀨の宝登山神社と秩父夜祭で有名な秩父の街の真ん中にある秩父神社だ。

実はこの2つの神社には昨年先取り初詣で熊谷から約40kmを歩いて参拝にきている。残った三峯神社に来年行こうと話合っていて、今年先取り初詣になった。



■旅はまだ終わらない

参拝しても旅はまだ終わらない。

境内の茶店で軽く一杯やって、三峯神社始発の路線バスに乗って秩父の街まで心地よい眠りについて帰ろうと考えていた。

しかしながら、とんでもないことになっている。バスは出発 10 分前なのに何と満員だ。参拝客の多くは自家用車で来ているが、電車とバスを乗り継いでくる人たちも多い。さらに乗客の装備を見ると参道の登山道を登ってきた人たちもいるようだ。こんな年末に参拝に来る人がこんなに多いとは全く予想してなかった。今までの先取り初詣では経験がない。さすがに三峯神社だ。

とにかく眠って帰るなどとんでもない、満員バスに 1 時間揺られ立って帰ることなる。

満員のバスはようやく西武秩父駅に到着する。昨年同様に駅前の日帰り温泉施設「祭りの湯」に立ち寄る。この施設は駅前というよりも駅に隣接している。それもそのはず西武鉄道の系列会社の施設だ。従って駅から外に出ることなく温泉に浸ることができるので利用客は多い。

たっぷりと温泉に浸かり体を癒す。湯に浸かっていると本日の苦行(?) が全てエネルギーに代わって体に蓄えられていくような不思議な感じがする。パワースポット三峯神社の御利益か。

■S-TRAIN

冷たい缶ビールを数本、つまみや弁当も買い込んで電車に乗り込む。

プシュッ、リングブルをあけて缶ビールをカチンと合わせて乾杯。冷たいビールが温泉で火照った体に染み込んでいく。至福の一杯というのはこういうのをいうのだろう。この一杯のために早起きして寒さの中の山歩きがあったと言っても過言ではない。

この電車は S-TRAIN という全席指定の特急電車で、綺麗な新しい車両でトイレも付いている。

土日祝日の限定ながら秩父駅から横浜駅まで西武鉄道と東急電鉄が共同運航をしている特急電車なので、横浜まで乗り換えなしで行ける。まるで車内打ち上げをやってくれと企画されたかの電車だ。首都圏から秩父観光に行くにはお勧めの電車だ。

車窓からは秩父の街や山々、田舎の景色が見える。それを肴にビールがすすむ。

都心に近づくにつれて家々が増え、下りの線路には通勤電車が走り、景色が変わっていく。都会の駅のホームでは人々が忙しくしている。先ほどまで見ていた秩父の田舎の駅の光景とは様変わりをしている。

池袋に到着して乗務員が西武鉄道から東急電鉄に入れ替わる。制服が全く違うので別の電車になったかのような錯覚に陥る。これも滅多に見ることができない珍しい光景だ。

■誤乗

渋谷駅でこの特急電車に何人かの乗客が乗ってくる。どう見ても特急電車を目的に乗ってきた乗客ではない。間違えて乗ったならば、専門用語で誤乗と呼ばれるものだ。

何故、私がそんな専門用語を知っているかという、だいぶ昔の話だが会社の先輩が飲み過ぎて電車を乗り過ごして東京から浜松まで行ってしまった。駅員の恩情で「誤乗ですか？」と言われて「そう誤乗です！」と答えて、乗り越し料金を払うことなく始発電車で戻ってきた。先輩はそれを自慢気に私たちに語り、それ以来乗り過ごす度に何度も誤乗を言ったという。

しかし本来の誤乗とは誤って乗ることで、例えば誤って急行電車に乗ってしまいローカル駅に降りられなかったような場合を意味しており、決して飲んで乗り過ごすことではない。先輩はそのことも駅員から聞いて知っていた。

今、目の前で起きていることは誤乗とはやや違う。車内放送で「この電車は全席指定なので別途指定席券が必要になります」と何度も言っており、本人たちもそれを聞いていた。これは確信犯だろう。

電車が発車してしばらくすると車掌がやって来て、この乗客たちと話をしてその後に起きたことに私は驚いた。

乗客は席を立たされたのだ。立たされたというよりも自ら立ったかも知れないが、車掌は立ち上がりというように手を下から上にあげるジェスチャーをしていた。

多分、座席指定なので指定券を買わないならば、次の駅まで立っていてそこで降りて下さいというような会話が合ったのだろう。しかし、中には立ち上がらないでお金を払って座っている人もいる。その乗客は偶然かも知れないが外国人だ。

指定席券を買わないなら立っているというのは分からない理屈でもないが、電車はもう終点に近く席はガラガラなのに何も立たせなくても良いだろう。あるいはあれだけ車内放送をしていたのだから日本語が分かる人ならば確信犯だろう、だったら指定席券を買ってもらえばいい。結果的には車内放送を理解できなかったらしい外国人だけがお金を払った。

この車掌の対応に日本的な現場の知恵みたいなものを感じながらも、私には何とも理解し難い中途半端なものに映った。

そして、あの先輩の顔が浮かんできた。

■ 14 時間の旅

車内打ち上げ開始から 2 時間 30 分後に電車は横浜駅に到着する。

時刻は 19 時 30 分になっている。今朝、横浜駅を出て 14 時間経過しているが、寒さ、落石、氷柱、地元の人、サイクリスト、絶景、参拝、満員バス、温泉、車内打ち上げと、とても一日の出来事とは思えないほど色々なことが体験出来た。変化にとんだ充実した先取り初詣になった。

歩いた距離は 21km で 35000 歩は例年に比べると少ない。ただし標高は 300m から 1225m、そして 1100m に至った。

さあ、来年はどこに先取り初詣に行こうか。1 年かけて考えよう。